

令和6年度 江戸川区立松江第一中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

重点	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
			9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	・「誰一人取り残さないための 学力向上に向けたアクションプラン」 を計画的に進める。 ・生徒用のデジタル教科書を配備 し、授業の予習や復習にも活用 する。個別の最適な学びへの一 人一台端末の活用を促す。 ・放課後補習教室を希望する生 徒が、可能な限り参加できるよ うに調整をする。	・授業アンケート回答「授業が よくわかる」「授業がわか る」の合計が90% ・各学年で授業がある日の 9割で授業配信	B		B	・授業アンケートの結果、多く の授業で「授業がよくわかる」 が90 %を達成した。授業規律の 徹底もできた。 ・各学年1クラスで定期的に授業 配信ができた。何らかの事情で 教室に登校することができない 生徒が視聴することで少しでも 授業内の雰囲気を感じ取ってほ しいと考える。	B	・近隣小学校では、都の正答率 を上回っている。これに倣って 松江第一中学校の更なる学力向 上につなげてほしい。 ・校内は落ち着いており、良い 学校になっていると思います。	B	・生徒アンケートの結果、多く の授業で「授業がよくわかる」 が93%を達成した。授業規律の 徹底もできた。また平日の家庭 学習を毎日1時間以上行うことが 出来た生徒の割合は55%と昨年 に比べ微増であった。	B	・保護者アンケートへの記載に もあるように、教職員の丁寧な 対応にたいして大変ありがたい と感じている。また「1人1台端 末」はこれからの時代に必要 なスキルであるので学校でもし かりと身につけてほしい。	・デジタル教科書の利用 は教科によって差が大き い。1人1台端末の更なる 活用のため授業や家庭学 習などでの利用を促す。
	区教委の取り組みである 「江戸川っ子studyweek!」 を確実に実施する。	・「江戸川っ子 studyweek!」で電子ト ル等 に取り組む生徒数を半数以 上にする。	A		A	・「江戸川っ子studyweek!」 利 用強化期間を定期考査期間中に 設定した。約半数の生徒が取り 組んでいた。	B	・学力向上にとってよい取り組 みであると考え。強化週間の 設定もtetoruで周知されてい るのも良かった。	B	・「江戸川っ子studyweek!」 利 用強化期間を定期考査期間中に 設定した。約半数の生徒が取り 組んだ。	B	・多くの生徒は学校に行くこと を楽しんでいるようだ。 アンケートも80%を超える生徒 がそのように感じている用であ る。それは、本校の授業規律が 高いレベルで維持されている証 左だ。学校では落ち着いた環境 が何より必要である。	・生徒の学力向上に向け て、とくにED0スク（放課 後補習教室）を有効に活 用していきたい。
	・学校図書館の整備を区立 図書館司書と計画的に進め る。 ・図書館司書による「図書 館の使い方授業」を実施す る。 ・PTAの協力を得ることで、 学校図書館の開設時間を増 やす。	・各学年で成果物を1つ以 上作成する。 ・図書紹介 年間1時間以 上確保 ・朝読書を21時間、14回の 1単位時間 合計35時間分 の読書科の授業を実施 ・都学力調査（国語）都平 均以上にする。	B		B	・授業における学校図書館の利 用回数については、まだ改善が 必要である。 ・司書教諭と松江図書館の支 援員が協力して蔵書の管理・更 新を計画的に進めた。 ・ブックトークや図書委員を中 心とした書籍の紹介を朝学活で 行った。	B	・月に2～3回水曜日に、PTAに より図書館開放を実施してい る。ただ利用回数が少なく生徒 たちの読書向上につながってい るのかは検証が必要である。生 徒への啓発活動も継続してほ しい。	B	・クラスにおけるブックトーク や図書委員会の活動を中心とし た書籍の紹介を行った。 ・校外学習等の事後学習で学校 図書館を活用し探求的な学習を 実施した。一班ずつポスターを 作成したが、見る人がわかりや すく工夫した生徒が多かった。	B	・アンケートを見るに読書に対 して「あまりあてはまらない」 「あてはまらない」の回答が 60%以上であった。落ち着いた 学校であるだけに少し寂しい結 果である。今後改善していく課 題である。また毎週水曜日に、 PTAの協力により図書館開放を 実施している。生徒への周知今 後も継続してほしい	・書籍のバーコード化に より、本の貸し借りの利 便性は確実に向上した。 図書館の更なる利用促進 を図りたい。読書科の 「探求的な学習」をどの ように進めていくのかに ついて、進路学習部を中 心として検討する。指導 を組織的・計画的に実施 していく。
体力の 向上	・体力向上を促すために、体育 の授業前に補助運動を必ず実施 する。 ・全国や東京都の体力調査結果 を分析し、生徒にとって伸ばす べき能力について確認する。	・体力調査 都の平均以上	C		C	体力調査において男女とも都の 平均を下回っている。生徒間で 運動の得意・不得意が分かれて しまっている。保健体育の授業 開始時に補助運動を強化する。	C	・地域・保護者の立場からみても 体力低下について危機感を感 じる。運動部活動では良い成績 を残しているの、それが体力 向上の結果につながるよう期待 したい。	C	・生徒アンケートから、体力向 上に意欲的に取り組んでいる生 徒の割合は60%以上である。 ・昨年に引き続き体力調査は男 女とも都の平均を下回ってお り、結果が表れてこない。	C	・地域・保護者の立場から見ても 体力低下が深刻であると危機 感を感じる。今後体力向上に対 して、学校がどのように考えて いるのかをしっかりと聞く。	・読書科の「探求的な学 習」をどのように進めて いくのかについて、進路 学習部を中心として検討 する。指導を組織的・計 画的に実施していく。
共生社会の 実現に向けた 教育の推進	・生徒に向けて障がい者や LGBTQへの理解、多様性を理 解する教育を実施する。	・障がい体験する授業を各学 年で実施 ・1学年 アイスク体験（6月） ・2学年 手話体験（11月） ・3学年 点字体験（3月） ・多様性を理解する講演会（11 月）	A		A	・障がい体験する授業とし て、5月にアイマスク体験を実施 した。2学期以降も予定されて いる体験や講演会を確実に実施 する。	A	・日本においても障がい者や LGBTQへの理解が進んできている と感じます。子供たちが必要な 知識や態度を学んでいってほ しいを思います。	A	・「多様性を理解する講演会」 として、11月にアイヌ民族に関 する講演会を実施した。次年度 も生徒の人権に関する意識を高 める講演会や体験を実施する。	A	・時間差で登校する生徒がいる 聞いている。また給食の配膳な どで交流をしているとの話を聞 いていると、不登校について校 内やクラスでもさらに理解が進 んできて行くことが重要であ る。	・例年踏襲している「多 様性講演会」と「障 碍理解教育」を実践すると ともに、世の中の変容を考 慮してどのような研修が 必要であるか、議論して いく。
	・昨年度までの「不登校児 童・生徒支援調査研究事 業」の対象校として、インレ ッジメントの設備や運用方法をさ らに充実させる。	・不登校理解を深める教員 への研修を年に1回以上実 施	A		A	・夏季休業中に不登校に関わる 自主研修を合計3回実施し、理解 を深めることができた。	B	・時間差で登校する生徒が いると聞いています。給食や行事に 少しでも参加させてほしい。校 内やクラスでも理解が進んでき ていると感じます。	B	・年間を通して不登校に関わる 研修や勉強会を実施、教職員や 保護者に対して不登校のメカ ニズムについての理解を深めた。	B	・学校全体が落ち着いているこ とで、安心して登校させること ができる学校だと思う。 ・スクールカウンセラーを利用 する生徒も多いと聞く。不安や 悩みをもつ生徒に可能な限り寄 り添ってほしい。	・本年度は「持続可能な 不登校生徒への支援」を 模索したが、まだ道半 ばであると感じる。ERの 活用のみならず発達支持 的生徒理解を推進してい くにはマンパワーが必要 であると強く感じる。

	区内にある都立鹿本学園との副籍交流を通して、生徒の障害者理解を深める。	特別支援コーディネーターが1学期に1回、副籍生徒の情報共有を行う。	B		B	・お互いの学校だよりを交換するなど定期的な情報交換及び情報共有を実施している。	B	・副籍交流は子供たちにとって鹿本学園の様子を知ることができる良い機会だと思います。	B	・特別支援コーディネーターによる情報共有は実施することができた。	B	・副籍交流については、校内の掲示板で内容を知ることができると、もう少し広報活動を広げて欲しい。	・次年度も引き続き必要な交流を続けていく。
不登校・いじめ対応の充実	・今年度は不登校を発生させない「発達支持的生徒理解」を推進する。	「発達支持的生徒理解」に関する校内研修を年1回以上実施する。	A		A	・4月当初に職員研修を実施しそれぞれの職員が不登校を生まないために何が必要なのかを考える機会となった。	A	・不登校を発生させない取り組みは素晴らしいと考える。今後も発展充実を期待したい。	A	・発達支持的生徒理解の推進により、ER利用生徒開始段階で適切な対応をとることで、早期の教室復帰を果たすことができた生徒もいた。	A	・不登校に対する支援事業は相変わらず素晴らしいものがあると感じている。ただ、通常登校をしている生徒にも同じだけの熱量で対応をしてほしいと感じている。	引き続き「発達支持的生徒理解」を推進させ、生徒の不登校発現率を少しでも多く低下させる。
	・ヤングケアラーの早期発見に必要な対応をする。実際に支援が必要と思われる事案にはSCやSSWなどの関係機関と連携し多方面から生徒への働きかけを行う。	・1年生と担任の面談を1回設定し、ヤングケアラーについての聞き取りを行う。必要と判断すれば2回目の面談も実施する。	B		B	・1学期中に1年生と担任との面談を実施した。ヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。	B	・学校全体が落ち着いていることで、安心して登校させることができる学校だと思います。	B	・1年生と担任はヤングケアラーについて2者面談を実施した。気になる生徒については児童相談所など、関係機関に早期につないでいった。今後もヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。	B	・ヤングケアラーの人数が予想以上に多いことに驚いた。学校だけに支援をさせるのではなく、支援が必要な世帯へ行政がしっかりと対応をするべきである。	・生徒のヤングケアラーの数は少なくない、生徒の様子に常にアンテナを張り、早期発見、早期対応に心がける。SSWや児相などの関係機関と連携を深めていく。
	・生徒やクラスの状況についての理解を深めるためhyper-QUを実施し、その結果を分析することで生徒にとってより良い学校生活への改善に活用する。	・hyper-QUを年に2回実施する。	A		A	・hyper-QUを1学期に実施した。結果を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に早期に発見し対応するようにする。	A	・クラスの分析や対策をさせていただいていることを聞き、とても安心しております。	A	・hyper-QUを2学期にも実施、1学との結果を変移を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に早期に発見し対応するようにする。	A	・子供たちの人間関係について先生方が調査と研究をしていたことに安心しております。	・Hyper-QUはそれぞれのクラスにおける生徒理解に有効である。生徒が満足できる学校生活を送るためにはどのような支援や改善が必要なのかについて協議する。。
学校（園）の開かれた地域社会の実現	・本校の教育課程関連資料やいじめ基本方針をHPに掲示し、地域・社会に開かれた学校の実現を目指す。また生徒の日常の教育活動を可能な限りアップすることで、保護者や地域の皆様に本校の教育活動への理解を深めていく。	・行事や学校での出来事を紹介するために週1回以上は学校HPの更新を行う。	A		A	・経営支援員の協力により、日々の教育活動の紹介をアップするなど、学校HPの更新は頻繁に実施できている。今後もさらに充実していく。	A	・給食のメニューや行事の様子が更新されています。とてもわかりやすいホームページだと思います。	A	・週1回以上の学校HPの更新を実施できている。今後もさらに充実していく。	A	・給食のメニューや行事の様子が更新されています。わかりやすいホームページだと思う。学校行事についても、もっと細かに写真付きでタイムリーに更新していったらいい。	・HPの更新はもちろんのこと、本校の教育活動をより社会に開かれた者とするために、HPやtetoruなどを積極的に活用する。
	・特に地域の自治会や町会の方々にも学校公開を参観していただく。	毎月1回配布している学校だよりにより学校公開の内容を含めて配布する。	A		A	・毎月学校だよりを配布することが出来ている。その中で学校公開の連絡も出来ている。	A	・普段なかなか学校の様子が分からないが、公開期間で観ることが出来て良いと思う。	A	・7月と12月の2回、近隣小学校や特別支援学校、自治会、PTAなどを交えた協議会を実施した。	A	・松江一に関わっている様々な立場の方々と、情報交換をすることは重要である。他学校や近隣自治会の様子を知ることができた。地域との連携に有効である。。	・地域の運動会やお祭りなどに、部活動や有志の生徒を中心としたボランティア活動を周知していきたい。
	・参加人数やその内容について検討しながら、地域への行事へ積極的に参加する。	・4月下旬と11月下旬に蓮植え。蓮堀りを計画する。	A		A	・4月29日に蓮植えの会を実施した。生徒会役員や部活動の部員も参加したり、吹奏楽部の記念演奏があり盛況であった。	A	・昨年以上の参加があり良かった。蓮の成長も順調である。11月の開催も期待している。	A	・4月と11月の2回、本校にある蓮池で「蓮植え」「蓮堀り」を実施した。生徒のボランティア参加や吹奏楽部の記念演奏などがあり盛況であった。	A	・生徒ボランティアのみならず、PTAのOBや以前勤務されていた先生方も集まり盛大に開催することができた。今後も継続してほしい。	・本校の伝統行事を継承しつつ、その時代にあった運営方法について協議を重ねていきたい。
教育の特色ある展開	生徒の出欠席の連絡を「Tetoru」を用いることで業務負担を軽減する。朝の伝達事項をC4thの連絡掲示板等を使用することで朝会の時間を短縮させる。	朝全体打合せを3分以内に終わらせる。	B		B	・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了している。また連絡掲示板の活用も進んでいる。	B	・朝の欠席連絡がtetoruでできることで、保護者の負担が減って良いことだと思う。	B	・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了することができた。	B	・朝の欠席連絡がtetoruでできることは、保護者にとって負担が減ってよかったと思う。	・学校のICT化はまだ道半ばであり、校務軽減の可能性は多くの場面にある。ICT支援員を活用することで、働き方改革を推進する。